

令和7年度がん教育等外部講師連携支援事業 がん教育推進校実践報告

小松市立南部中学校

学級数：13学級 生徒数：476人

【テーマ】

『がん』についての正しい知識を身に付け、自らの健康を守るためにできること、健康を管理するためにできることを考える。

1 はじめに

本校の2年生の事前アンケートの結果から、がんに関するある程度の知識は既にもっている生徒が多いことが分かった。一方で、「がんの痛みは我慢するしかない」「自分はがんにならないと思う」「がんの治療は医師が決めるものである」「がんになっても生活の質を高めることができる」の設問では意見が分かれていた。本学年の生徒は、健康の保持増進や生活習慣病を予防するための適切な方法や生涯を通じて健康な生活を送ることが出来る正確な知識の理解には至っていない現状にある。

そこで、がん教育において外部講師を招聘し、『がん』について学習することでがんについての意識を深め、身近に考えることが出来るようにし、『がん』だけでなく様々な疾病に対する意識の変容、健康の保持増進や生活習慣病の予防、早期発見・早期治療の大切さについて理解させ、本単元で学んだことを自分事としてとらえ自他の生活に活かすことが出来るようにした。

2 実践

(1) 本事業を行うまでに行ったこと

本事業を行う前に生活習慣病について、喫煙、飲酒についての学習を行った後に『がん』についての調べ学習を行った。

『がん』についての調べ学習を行った際には調べ方は生徒に委ね、教科書や参考資料、学習用端末を使用するなどして様々な見方や考え方を働かせて『がん』についての知識を持つことが出来た。



(2) 本事業の流れ

①前時までの学習内容を確認する

前時までの学習内容を確認するとともに、生徒がいつでも既習を振り返ることが出来るよう、端末で共有した。

②アンケート結果の共有

『がん』に関するアンケート結果から、『がん』についての知識については比較的高い割合で正解していたこと、一方で「がんの痛みは我慢するしかない」「自分はがんにならないと思う」「がんの治療は医師が決めるものである」「がんになっても生活の質を高めることができる」という質問については意見が分かっていたことを確認した。ここで生徒自身が『がん』という病気について身近に考える意識を持つことが出来た。

前時までの学習やアンケート結果から生徒の疑問を提示し、生徒の疑問から課題を設定した。



③『がん』について学ぶ

「日本人のがんになる人の割合、がんによってなくなる人の割合」「がんは生活習慣病だと思うか」「がんの予防と早期発見の重要性」についてクイズを交えながら生徒に考えさせた。

その中で『がん』＝生活習慣病、治らない危険な病気と思っていたものが、『がん』＝生活習慣も関係しているもの・予防できることがある・避けられないがんもある・早期発見することで治る確率は高くなるという考えに変わった。

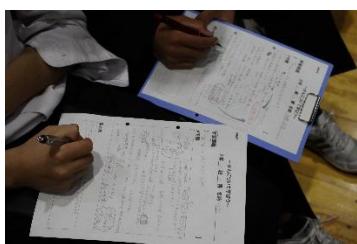
④自分事として考える

「あなたはがんです。と言われたら？」という発問について考えた。生徒からは「怖い」「悲しい」「どうなってしまうのだろう」などの意見が出てきた。『がん』という病気について、お医者さんの目線から患者さんの思いや患者さんの周りの人々の関係性、『がん』に関する人々とのかかわり方についても話してもらい、自分事として考えることができた。

⑤まとめ

本時の学びを振り返る中で、『がん』について生徒の言葉でまとめた。

生徒のまとめには「がんは生活習慣を気を付けていても避けられないことがある。」「がんは早期発見すれば治る確率が高くなる。そのために定期的ながん検診が必要である。」「がんはがんになった人だけでなく、その周りの人のかかわり方も重要なになってくる。」などの様々なまとめがあった。



(3) 生徒の感想

・生徒Aの感想

改めてがんは危険だと思ったし、予防や検診を家族に勧めたり自分も受けたりしようと思った。

・生徒Bの感想

がんはだれでもなる可能性がある病気だと知りました。なので、なるべくならないようにするために定期検診に行ったり、生活習慣を良くしたりすることを心がけようと思います。また、がんになった人に対しても思いやりの心を持ったり以前の生活と変わらないような態度で接したりして安心できるようにしていきたいです。

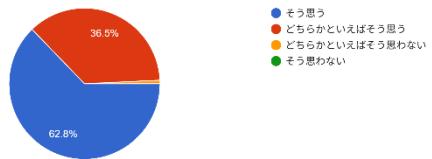
・生徒Cの感想

がん教育を受けてみて実際に医師の方の話も聞いてみてがんはすごく身近な病気である事がわかりました。遺伝子でどうしてもなってしまったりすることもあったりしたり、でも治療法がどのくらい進行しているかによっては選べたりすぐ対処できたりとすることがわかりました。患者さんの意思もしっかりと分かったうえで治療を進めていくということだったので、自分ががんになった場合にがん教育を受けて少しでもがんについて知っておいたらやりやすいし、こうした方が良いと考えることができるし、予防できるがんもあることを知ったので、これから予防したりしていけるから、自分ががんにならないようにもできるなと思ったので今回の教育を受けられてよかったです。日常生活で気をつけられることはこれから気をつけていきたいです。

3 生徒アンケートの結果

【実施前】

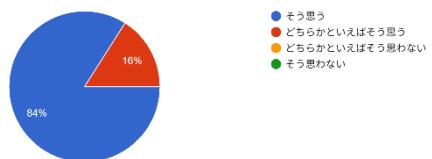
がんの学習は、健康な生活を送るために重要な
137件の回答



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

【実施後】

がんの学習は、健康な生活を送るために重要なだ
144件の回答



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

【がんの学習は、健康な生活を送るために重要なだ】という発問に対しでは、そう思うという割合が大きく上がった。

【実施前】

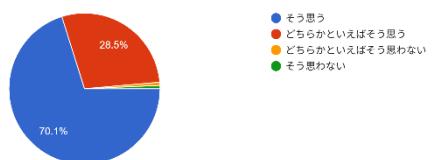
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う
137件の回答



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

【実施後】

がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う
144件の回答



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

【がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う】という発問については、検診を受けようと思う意見が多く増えた。

アンケート結果から『がん』という病気について自分事としてとらえることができた生徒が増加したことが分かった。

4 実践の成果と課題

○○成果○○

本事業を通して、又野先生からのより専門性の高い内容で学習を進めることができ、『がん』とはどのような病気なのかを考えることができたと感じる。事前に調べたことや自分の思いを、学習の中で変容することができ、『がん』という病気について深く考える姿が見られた。

また、『がん』という病気がとても身近なものであり、「もしも自分がなってしまったら」「周りの人かなってしまったら」ということについても自分事として考えることができた。

そして、本事業を担当することが決まってから『がん』に対しての知識を自分自身もより考えを深めることができた。学年一斉で行う方法についても工夫し、どのようにすれば全員が考えを深められるのかということについても考えることができ、自分の今後についてもとても大切な経験ができた。

◆◆課題◆◆

今回は学年一斉での学習を行った。その中で、生徒たちにはたくさんの専門的な内容を伝えることができたが、内容量が豊富で、生徒同士での考える活動時間が少なくなってしまったことが課題として挙げられた。

まとめや振り返りはねらいに迫ることはできていたが、教師主導になってしまった。生徒同士の活動の中でねらいに迫ることができればよかったですと感じる。

そこで生徒同士の活動時間を確保するため内容の精査、単元構想をもっと細かく行う必要があると感じた。また、大人数で行う際には学習用端末の活用方法についてももっと検討する必要があると感じた。